

こだま 新聞

第 6 号
平成8年3月1日
印刷・発行
児玉医院・歯科

【医院紹介】（治療室）

来院された方はお分かりと思いますが治療室はオープン形式となっております。
これは、治療を受ける時に少しでも患者さんに不安を与えないように考えた結果です。付き添いに来た人でも治療を待っている患者さんの様子をいつでもご覧になれます。（中には、他人に見られたくない患者さんもあるかも知れませんが、そういう方には第二治療室で診療いたします。）
特に子供さんの場合、兄弟や付き添いの人が見える所で治療すると安心する場合があります。

治療する側においても、治療室にいる患者さんと待合室にいる患者さんが見渡せるので、具合の悪い人や用事のある人がいればすぐ応対し易いという利点があります。



【歯の豆知識】（フッ素）

フッ素の意義

虫歯の予防法として、歯ブラシによる歯面の清掃、食餌指導、フッ素塗布の三つが行われています。虫歯の原因であるプラックを歯ブラシで100%除去するとは現実には困難です。従って、歯ブラシで除去困難な部分の予防法として食餌指導とフッ素塗布が必要と

なります。

フッ素が歯面の表層に沈着すると、虫歯の発生を抑制することが知られています。虫歯の予防としてフッ素有効に作用させるために、いくつかの条件を満たしている必要があります。

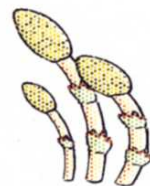
一、フッ素は時間の経過とともに排泄されていくので定期的なフッ素塗布が必要。

二、虫歯を予防する効果はあるが、虫歯を治したり止めるような効果は期待できない。従って、虫歯の治療が終わっていないと効果は期待できない。

塗布の時期
虫歯の治療が終わってしばらく、何時からでもかまいません。塗布の際、一定の間、歯面にフッ素を作用させておく必要があるため、少しの間、動かないで我慢できる年齢が良いと思います。塗布の間隔は少なくとも半年に一回、できれば三

ヶ月に一回が適当です。虫歯が多発するのは高校生までですから少なくとも中学生までは塗布を続けて頂ければ万全かと思えます。

安全性



フッ素が上水道に多量に含まれているために歯牙フッ素症が発生している土地でもフッ素によるアレルギーの報告はありません。フッ素塗布で使用されるフッ素の量は2cc程度ですから全量を飲み込んで中毒症状を起こすことはありません。

体内に入ったフッ素はそれほど時間は数時間以内に体外へ排泄されます。また、骨や歯に沈着したフッ素も時間の経過とともに排泄されてしまいますので、永久に体内に残ることはありません。

これらのことからフッ素塗布において危険性はないと考えて良いと思います。

【お知らせ】（保険改正）

四月一日に保険点数の改正があります。歯科治療の点数も全体の平均で2%程度増える見込みです。ご理解とご協力をお願いいたします。

【終了賞】

先月終了賞をお渡しできたのは次の皆さんでした。

渡部周太郎君 藤井隆之君
渡辺美智子さん

兵藤尚子さん 兵藤蘭さん

【行事】

二月

十一日 近代口腔科学研究会
十二日 職員誕生日（佐々木）
十七日 メビウス例会
十七日 五城目 蔵開き
二三日 職員誕生日（菅生）

三月

十日 近代口腔科学研究会
十六日 メビウス例会